

令和元年度 事業報告書

事業方針

- ・コミュニティ財団『南信州基金』創設による、地域内で志金が循環する仕組みをつくる。
- ・地域運営へ、自分で考え自分で実行できる人（市民）を育て、まちづくりへの新しい動きを起こしていく。

総括

『南信州基金』の設立について、毎月一回の勉強会兼交流会として『みなじん』を開催し続けており、コアメンバーが7人ほど固まってきた。『みなじん』では、メンバーが講師役となり、地域にある課題を毎回ひとつ取り上げ、その現状を知り、どんな支援ができるか、などざっくばらんに語り合っている。

コロナ禍により全国的な寄付募集活動が立ち上がり、その時期に組織立ち上げの意識が高まったが、一般財団法人設立にかかる300万円の寄付が集まるかどうか、という点でまだ第一歩が踏み出せていない状況である。

ムトス飯田推進委員会コーディネート専門委員会委員として、主にNPO法人に関する相談の対応を行った。法人設立の相談が一番多いが、安易に設立することなく、十分に周りと相談してから設立してほしい、ということ強く伝えている。

ムトスファンド総会にて、借り入れ件数が増えないことが問題となり、貸付期間の延長などが改正されたが、理事としてNPO法人の運営への梃子入れをしていかないと、借り入れを起こしたいような事業意欲を持つ法人が増えないことを提起した。そのことについて、後日具体的な事業提案を行った。

長野県県民協働有識者会議では、県内NPOの活動に進歩があまり見られないことから、現場の支援をするにはどうするべきか、という議論がなされたが、県が広い県内のNPOを直接支援することはセミナーくらいしかなく、それより、県内各地の中間支援組織をもっと強くすることで、そのスタッフが現地のNPOを支援できるような体制をとるべき、と提起した。

県内中間支援組織の連絡会が数年開催されていないことから、スタッフの能力開発に県の具体的な後押しができるよう、後日事業提案を行った。

事業報告

【市民活動支援】

- ・ムトスコordinエート専門委員会委員として、希望者への相談対応、活動団体への訪問などを行い、団体の抱える悩みについて相談に乗り、アドバイスを行った。
- ・南信州基金立ち上げへの組織固めと、設立資金募集等について支援を行った。

【特定非営利活動法人設立・運営支援】

- ・長野県県民協働推進課主催の『NPO法人設立講座』の飯田・伊那・諏訪会場の講師を務めた。

【ネットワークの形成】

南信州基金の立ち上げのため、これまで当法人の活動を支援してくれている団体・個人に、趣旨の説明や協力依頼を行った。

【人材育成】

月に1度のざっくばらんなまちづくりのアイデアを出し合う会『みなじん』の中核として、話題提供や会場の提供を行った。

【まちの活性化につながる事業】

直接的な活動は今年度行っていない。